

理事長が聴く【名張市長対談】

当センターの理事長が県内各地の首長や注目を集める人物と「地方自治」の様々なテーマについて対談を行うシリーズ「理事長が聴く」。

今回は、「暮らしやすさと幸福が実感できるまち」をめざす名張市の 北川 裕之市長 との対談をお届けします。

対談日：2026 年 8 月 3 日

（田中俊行 三重県地方自治研究センター理事長 以下（理事長））

この「理事長が聴く」は、県内各市町の首長の皆さまに、地方自治に関するさまざまな課題や今後の展望についてお話を伺い、その内容を機関紙『地方自治みえ』や当センターホームページで発信していく企画です。自治体職員の皆さまや当センター会員の皆さまと情報を共有し、これからの地域づくりを考えるヒントにさせていただくことを目的としています。

それでは、よろしくお願いいたします。

まず初めに、これから名張市について伺う前提としまして、北川市長の考える名張市の魅力について伺いたいと思います。

（北川 裕之 名張市長 以下（市長））

後の話にも続きますけれども、名張市の魅力は「地域共生社会」です。前市長の時代から培ってきており、人と人とのつながりが強く、地域づくりも盛んで、それがこのまちの大きな力となっていて、それが一番の魅力だと思います。数字ではなかなか計れないものではありますが、今後もそれは継続して大事にしていきたいと思っています。

【テーマ①】名張市シティプロモーション戦略について

（理事長）

名張市シティプロモーション戦略とは、「語れるまち なばり」を基本理念とし、まちに関わる「活動人口」を増やし、まち全体の価値を高める戦略と伺っています。現状、取組の成果、今後の課題と展望についてお聞かせください。

(市長)

シティプロモーションの取組のスタートは、三重県地方自治研究センター主催の講演会でした。私が県議会議員時代に、東海大学河井孝仁教授の講演会を聞きに行ったことが始まりで、市長になったらシティプロモーションに取り組みたいと思いました。ありがたいご縁をいただいたと思っています。

名張市は、前市長のもとで地域づくり、福祉ネットワークづくりを熱心にやってきたのですが、引き継いでどうやってバージョンアップしていったらいいか悩んでいたところでした。そんな時、河井教授のシティプロモーションの考え方に共感させていただきました。

市長就任1期目に、市の総合計画「なばり新時代戦略」を作らせていただき、「語れるまち なばり」を基本理念として、シティプロモーションの考え方を取り入れています。

名張市の魅力としては、歴史、文化、観光もありますが、何より「人と人とのつながり」です。しかし、その魅力が十分発信できていなかった。そこで、シティプロモーションをやるなかで、市民の皆さんに再認識をしていただき、自らその魅力を発信していただこうと考えました。

まずは河井教授に地域力創造アドバイザーに入ってもらって、これから名張市を売り出していくためのブランドロゴを作ることになりました。市民公募で40数人集まってもらい、ワークショップを開催して名張市の魅力を出し合い、3つの案ができました。それを市民総選挙にかけ、多くの市民の皆さんからの投票の結果、『なんとかなるなるなばりです』というブランドロゴに決定しました。

市長や市役所が作ったものではなく、市民の皆さんの議論で案を作り、市民総選挙で決定したものです。ワークショップの中では、若い世代が名張市の最大の魅力は、人と人とのつながりであると話していました。若い世代からの声にも私も驚いたところです。名張市は、人と人とのつながりが強く、温かい。不安や悩みがあっても周りの人が助けてくれて、その中で夢や希望を満たすことができるまちであると。その思いからこのロゴができました。まさに名張市が培ってきた「地域共生社会」が表現されたものとなったと思っています。「地域共生社会」を大事にしていきたいと若い世代から声が上がってきたことに意味があり、これまでの地域づくりやネットワークづくりが生きているのだと実感しました。このシティプロモーションの取組は、「シティプロモーションアワード2025」で金賞を受賞することができました。

市長としての1期目4年間は市民の皆さんに名張市の魅力を共有してもらい、自ら発信してもらうものでしたが、これからの2期目はそれを市外・県外へ発信していこうと考えています。引き続きインナープロモーションも行いながら、アウトタープロモーションへ力を置いて発信していく準備をしていて、動画作成に

も着手しています。観光案内の動画ではなく、人と人とのつながり、暮らしやすさを重視したものを発信していく動画となっています。

(理事長)

普通の市町では、すぐにアウトプロモーションを考え、内容も観光や物産のPRが中心ですね。名張市のようにまずは市民へというのはなかなかないですね。若い世代からの発信は、将来へ向かって考えるととても心強いですね。

(市長)

本当に心強いです。ワークショップに参加する若い世代が地域へ戻って、地域づくりへも参加し、地域のイベントを起こしたり、お互いにネットワークを組みながら、特に若者向けの大きなイベントを開催するなどのアクションを起こしてくれています。本当に頼もしい限りです。財政が厳しいと理解してくれていて、財源も自力で確保し、発信していつてくれる。イベントなどで発信力を高めていつてくれていることに頭が下がる思いです。

(理事長)

動画の中身は、地域の絆が基盤になっているとのことですが、観光や物産についても入っているのでしょうか？

(市長)

それはほとんど入ってないです。人と人とのつながり、暮らしやすさを重視した動画になっています。

(理事長)

それはとても個性的ですね。シティプロモーションの動画としては、全国的に見ても他とは違う目線で作られているのではないのでしょうか。

【テーマ②】 財政再建について

(理事長)

続いてのテーマですが、事務事業の見直しについて、現状と課題、展望などをお聞かせください。

(市長)

事務事業の見直しにつきましては、かねてから庁内行政評価委員会で庁内議

論を深めてもらって、最終的に私が方向性の判断をしています。

令和6年の秋に、財政見通しが非常に厳しくなっていくことが明らかになったことを受けて、新たな行財政改革プランを作りました。それによって、行財政改革を進めているわけですが、それぞれの年度の目標の効果額を定めて、着実に結果を出していく取組を進めています。令和7年度予算で、目標5.2億円と設定しクリアしました。令和8年度予算でも、目標3.2億円と設定し、こちらもクリアしています。効果額の目標を出して、目標額を頭に入れながら、継続と廃止を議論しているところです。

更に、縮小社会を前提にスマート・シュリンク^(注1)やポジティブ・シュリンク^(注2)を積極的に進め、人口減少時代に備えてまちを最適化していくという考え方で動いています。事務事業の見直しも、本来の目的に立ち返って費用対効果を考え、これからの人口減少社会を見据えて、今の事業が本当にこの先も必要なのかを考えています。

(理事長)

将来性の視点も加えているということですね。

次に、固定資産税の税率アップの見直しについてですが、現在、市民向け説明会を開催されているとのことですが、市民の皆さんの反応はいかがでしょう。

(市長)

7月から8月にかけて、市内15地域で順次開催しています。

なぜ市の財政がずっと苦しいのか、構造的要因をお示ししながら私自身が丁寧に説明させていただいています。行政からの説明にありがちな一方的な説明にならないよう、数字的なものをお示ししながら、類似団体との比較をしたり、様々な工夫をしながら丁寧に説明するように心がけています。

(理事長)

色々な意見が出るでしょうね。

(市長)

厳しいご意見もいただきます。ただ、単純に賛成、反対というだけではなく、提案、提言もたくさんいただきます。市民の皆さんが課題を真剣に受け取っていただき、考え、そして意見を述べていただいています。

こちらが学ぶことも多く、勉強させられます。誰しも税率は上げてほしくない。しかし、財政状況が厳しいことも理解できる。というところで、やむを得ない判断かと一定の理解を示してくれています。ただし、未来への投資であればちゃん

と成果を出して欲しい、成果を見える化して欲しい、市民の納得を得られるようにして欲しい、とのご意見をいただいています。

(理事長)

構造的な要因がありますよね。新しい住宅団地に同じくらいの年代の人が一気に増え、都市整備にお金を使って、今、その皆さんが一気に高齢化し、福祉のお金が必要になってくるということですね。

(市長)

全くその通りですね。構造的な一つの要因として、人口急増時代に都市計画税等を賦課せず都市整備を行ってきたことです。時代的に一気に人口が増え、借金をしても大丈夫というなかで、起債を重ねてきたのだと思います。今となっては逆に人口減少時代で、公債費が非常に大きな負担になっています。また、世代に偏りがあり、一気に福祉のサービスを受ける世代が増えています。年齢構成的に働く人口が減ることで税収が減り、医療・福祉サービス等で歳出が増える構造になっています。また、公共施設も一緒に、一気に学校、道路等を作り、それが40年以上経過してきているので、一気に老朽化してくるという状態です。徐々に成長してきたまちであればこうはなっていないと思います。

あとは平成の市町村合併当時、合併にかかる住民投票の結果、合併しないという市民の選択になったものですから、合併特例債等の有利な財源措置を受けてこなかったことも要因の一つとなっています。

(理事長)

ネーミングライツ、企業誘致等で収入を増やす取組についてはいかがでしょうか？

(市長)

ネーミングライツは、対象施設を増やし、市道・公園も新たな対象に加えました。名張駅の東西連絡道も協賛いただいています。

一番注力しているのがふるさと納税で、毎年1億ずつ増やしてきていて、今では7億円まで増えました。そのうち半分が市に入ってくるのですが、返礼品の主力企業が撤退することが決まり、5億円ほどがその企業の製品になるため、その半分の2.5億円の減収になってしまいます。大きな痛手であり、戦略の見直しを迫られています。

(理事長)

企業撤退後の跡地の利用については何かお考えがありますか？

(市長)

県の企業立地担当にも相談、意見交換はしているところですが、できるだけ投資意欲のある地元企業で使ってもらえないかと考えています。

【テーマ③】既存大規模団地などの高齢化対策について

(理事長)

住民の高齢化による空き家増への対策についてはいかがでしょうか。

(市長)

それについてはなかなか有効な手が打てていない現状です。国との連携で移住を前提としたリノベーション補助金もありますが、市の独自の財源が厳しいので対応に苦戦しています。現在の取組としては、「空き家バンク」がありますが、空き家になる前に何とかしたいと市民から声が上がっており、新たに、「住み替えバンク」という制度を加えていきたいと考えています。そこに住みながらその後どうしていくかを考える方法です。国でも推奨している空き家等管理活用支援法人に力を借りながら軌道に乗せたいと考えています。

(理事長)

「住み替えバンク」は、全国的にも始まったばかりの取組でしょうか。

(市長)

そうですね。最近あちこちで始まってきた取組であると聞いています。

移住などの引き合いがあるのはやはり田舎の古民家ですね。都会の方からは魅力的に映ると思うのですが、住宅地の空き家を魅力的に見せていくのは工夫が必要です。

(理事長)

古民家への移住はよく聞きますし、需要があるんでしょうね。

(市長)

住宅地の場合、電気、水道、下水道など整っているため、すぐに住める環境で、セールスポイントは高いと思います。そこを上手にPRしながら、関西方面から

の二地域居住に使ってもらえたらと考えています。

(理事長)

二地域居住は増えてきましたからね。名張市は二地域居住にはもってこいの地域ではないかと思います。

(市長)

名張市でも鉄道会社とコラボしながら、二地域居住やお試し移住の取組に力を入れていきたいと考えています。

国がふるさと住民登録制度を進めるなかで、関西圏が近いので、二地域居住には非常に向いていると感じています。平日は仕事をして、休日には名張市で自然を満喫し、地域づくりにも参加してもらうことで、名張市の人と人とのつながりの魅力を感じてもらえたら理想だと思います。

【テーマ④】 公共施設(インフラ・ライフライン)の維持・更新について

(理事長)

次のテーマは全国的な課題だと思いますが、名張市における現状と課題をお聞かせください。

(市長)

都市整備を一気に行ってきましたので、公共施設の更新もほとんど同時期にやってきます。一気に直そうとすると財政を圧迫するので、人口減少社会を見据えてポジティブ・シュリンク、スマート・シュリンクを前提に、公共施設の再配置計画を考えているところです。

現在の公共施設をこれからもフルスペックで持ち続けることは難しいので、一旦整理する必要があります。現在、施設の劣化度調査を終え、再配置計画案を作っています。劣化度、用途、利用度を確認しながら優先順位を作って市民の皆さんに提案し、考えてもらい、一緒に議論させてもらいたいと思っています。同時に、財源の面では市民の皆さんにお許しいただければ、固定資産税の税率アップにより8億2千万円の財源が確保できますので、子育て支援や高齢者対策、公共交通の移動手段など、未来の暮らしを守るための投資に使っていきたいと考えています。また、施設更新が目白押しなので、残りの財源の一部を施設更新の基金として積み立てていきたいと考えています。

現状、名張市の将来負担比率は120%台であり、類似団体の平均6%台を大きく上回っています。今後はポジティブ・シュリンク、スマート・シュリンクの考

え方を前提に、財源をきちんと確保しながら公共施設を整理・最適化していきたいと考えています。

公共施設の再配置計画から別枠で考えているのが学校です。統廃合ありきというわけにはいきませんので、まずは、児童生徒数が激減していくなかで、どういう教育を子供たちに提供していくのが一番いいのか、「名張市の未来のより良い学校のあり方検討審議会」で教育のあり方を議論してもらっています。それを受けて、どういう施設や設備の対応をしたらいいかを二段階方式で考えていこうとしています。

(理事長)

教育は将来への投資ですからね。学校については少し特別な存在ですから、他の公共施設とは一緒にできないということですね。

(市長)

そうですね。

(理事長)

かなり他の市町とは違う視点のお話をいただきました。他の市町の魅力となるのは観光、物産ですが、市民の絆、つながりを大事にするということについては、名張市の特色だと感じました。

(市長)

若い世代の人が名張市は住みやすいと言ってくれています。周りの人が温かく、つながりがあって、それが住みやすさにつながっていると言ってくれているのが非常にうれしいです。

(理事長)

年齢が上の方が言われるのはわかりますけど、若い人達もなんですね。

(市長)

20代30代の方がそう言ってくれるのはとても嬉しく、意外でもあります。なかなか形には見えないものなので、大事にしていくのは大変ですが、人と人とのつながりが強く、暖かいという名張市の魅力を今後も発信していきたいですね。

(理事長)

本日は貴重な時間をありがとうございました。

補注

(注1) …賢く縮む 人口減少を前提に行政機関を集約・効率化し、同時に住民の幸福度を向上させるまちづくり。

(注2) …人口減少を悲観的に捉えるのではなく、ポジティブに適応しながら、地域社会をより良い方向へ縮小・最適化していく（株式会社 4DeeR が提唱）